

ANACONDA (Python3, Jupyter Notebook) 研修報告

都市デザイン学部 材料デザイン工学科 城戸 良介

1. 研修期間・場所

日時：9月26日(月) 13:15～15:15

場所：工学部管理棟 小会議室

2. 研修目的

DX化が進む職場で技術職員のDXスキル向上のきっかけになればよいと思い、Pythonプログラムの研修を開講しました。Pythonはプログラミング言語ランキングで常に上位にいる世界的に人気の言語であり、ビッグデータなどのデータ分析やデスクトップアプリの開発等が可能な言語です。AnacondaはPythonの様々なライブラリーを使用できるアプリケーションの中でもJupyter Notebookはデータ分析からアプリ開発まで可能な万能型の開発環境で初心者にも扱いやすいソフトです。この研修を通してDX化「初めの一步」を踏み出すことを目的としました。

3. 講師・受講者

講師1名：城戸技術職員（都市デザイン学部材料デザイン工学科）

受講2名：京極技術専門職員（工学部応用化学コース）

高田技術職員（都市デザイン学部都市・交通デザイン学科）

4. 研修内容

Anacondaのインストール、変数の代入、データ形式、四則演算、条件分岐、関数の定義、外部サービスとの連携(LineNotify)、ディスカッション

5. 所感

本研修はプログラミングを初めて行う人向けの簡単な内容から始めましたが、あらかじめTeamsでチャネルを作成し、スライドやコードを送付していたために短時間でも有意義な研修ができました。研修の最後はLineNotifyを利用し講師のLINEアカウントに感想を送信してもらいました。入力ボックスの作成や送信ログの保存など研修内容をすべて盛り込んだプログラムだったので全員無事動いて良かったです。ディスカッションでは業務への応用できないかなどを話し合いとても有意義な研修を開催できました。これを気に各持ち場のDXスキル向上につながればと願っております。

